

今週のメニュー

■トピックス

◇PVC Award 2021 受賞作品が決まる！

■随想

◇エスワティニ王国旅行記（４）道路と自動車

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

■トピックス

◇PVC Award 2021 受賞作品が決まる！

「生活を豊かにする PVC 製品」をテーマとして、PVC（塩ビ素材）の特長を活かして、機能を付与した魅力ある製品を公募し表彰するコンテスト“PVC Award 2021”の受賞作品が決定しました。2021年12月16日（木）、公式 web サイト（<http://www.pvc-award.com/>）に公表。準大賞（賞金 50 万円）には、「水中機器作業用フロートケーブル」（受賞者：[株式会社三ツ星](#)）と「リハビリ補助用具 Curaria」（受賞者：[株式会社ハイビックス](#)）の 2 点が選ばれました。

2021年7月1日～9月30日の募集期間に、全国から95点の応募がありました。2021年11月22日に審査会が開催され、以下の5つの審査基準をもとに応募作品の中から受賞作品が選ばれました。

- ①「生活を豊かにする PVC 製品」のテーマに相応しいか
- ②市場の規模・売上・伸びなどの実績、潜在市場獲得力があるか（市場性）
- ③PVC（塩ビ素材）の特長が活かされ、優れた機能を有する製品であるか（機能性）
- ④新規性があって創造的な発想や表現がデザインされているか（独創性）
- ⑤生活の利便性、環境配慮設計、資源循環、感染対策、健康、CO2削減、省エネ、防災・安全などへの貢献度（環境・社会貢献度）

審査員は以下の方々です。

芝浦工業大学デザイン工学科教授 橋田 規子氏

日刊工業新聞社論説委員・編集委員 山本 佳世子氏

（一社）日本住宅リフォーム産業協会専務理事 押部 隆利氏

塩ビ工業・環境協会理事 宮島 正紀氏

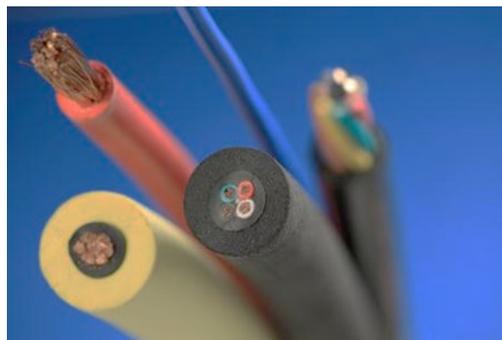
日本ビニル工業会常任理事 矢口 昭史氏

日本ビニール商業組合連合会会長 勝山 正昭氏

日本プラスチック製品加工連合会副会長 河野 修一郎氏

大賞に該当する作品はありませんでしたが、準大賞（賞金 50 万円）が 2 点、優秀賞（賞金 10 万円）3 点、特別賞（5 万円）4 点、入賞（2 万円）5 点が選ばれました。表彰式は 2022 年 1 月 11 日（火）六甲ビルで開催する予定です。受賞者には表彰状・盾などが贈呈されます。

準大賞の「水中機器用フロートケーブル」は、水中で作業する機器用ケーブルに、発泡 PVC を被覆して水に浮くケーブルとして、水中工事の作業性を大幅に改善し、水底を引きずる際の破損を防ぐ効果もあります。他の素材に比べて耐久性、弾力性など軟質 PVC 発泡体の特徴が活かされ、ケーブル保護としての機能があり、PVC 市場において新たな用途展開として高く評価されました。



準大賞の 2 つ目「リハビリ補助用具 Curaria（キュラリア）」は、理学療法士の方のアイデアを基に生まれた PVC 製のリハビリエアー用具で、空気圧でこわばった筋肉を持続的にストレッチすることで、筋緊張を和らげるだけでなく理学療法士の方々の負担軽減にも役立ちます。空気入れビニルの特性を活かした品質設計とリハビリ補助用具としての機能が評価されました。実際に審査員が装着して筋肉のほぐれを体験できたことが好評でした。

優秀賞の「ランラン RAIN」（[株式会社丸五](#)）は、雨の日も晴れの日も毎日履ける防水スニーカーで、丈夫で丸洗い可能でお手入れも簡単。PVC の発泡技術が活かされ、軽量で汚れが落としやすく防水靴としての品質設計とデザイン及び利便性が評価されました。



優秀賞の 2 つ目「収納色横型多目的シート YU2」（[株式会社水上](#)）は、耐衝撃性 PVC 板を採用して、他素材と比べ軽量、楽に操作できる利便性、耐久性、防汚性などが評価されました。多機能トイレの普及に伴い需要が期待されます。

優秀賞の 3 つ目「レンブロックキャンバス」（[有限会社 YPC](#) 及び [株式会社照和樹脂](#)）は、壁紙リサイクル材を 70% 使用した軟質 PVC コンパウンドを遊具に活用したこと、過去に VEC のリサイクル支援制度で採用された技術を応用し製品化したことが評価されました。





特別賞の「マリンフロート防散カバー」 ([有限会社広谷商店](#)) は、PVC シートをマリンフロートに巻き付けるアイデアと、内部の発泡スチロールが海に飛散するマイクロプラスチック環境問題の対策に貢献することが評価されました。

特別賞の2つ目「建物用耐火性硬質ポリ塩化ビニル管・継手」 ([株式会社クボタケミックス](#)) は、耐火性 PVC を使用した防火性と、継手部の透明化により異物や詰まりが視認できるなど機能向上が評価されました。



特別賞の3つ目「後付け逆流対策弁」 ([前澤化成工業株式会社](#)) は、工具無しで手軽に後付け可能な逆流対策弁の施工性とデザイン、豪雨時の逆流や排水器具のトラブルを制御できる防災への貢献が評価されました。

特別賞の4つ目「貯留材・アクアパレス」 ([株式会社トーテツ](#)) は、雨水貯留槽として海外で実績があつて、現在国内で建設中であること、豪雨時の防災として機能する点が評価されました。



入賞は次の5点です。①「花巾着」 ([株式会社 memori](#))、②「ユニボッチャ ロト口」 ([株式会社三和製作所](#))、③「数寄屋建材×高精細デジタル印刷壁紙」 ([日本写真印刷コミュニケーションズ株式会社](#))、④「縁結び団 (えんむすびます)」 ([株式会社ナショナルマリンプラスチック](#))、⑤「バイオマスデスクマット」 ([森松産業株式会社](#)及び[アキレス株式会社](#))。

今回審査員を務めていただいた橋田氏、山本氏、押部氏から以下の審査員講評をいただきました。

芝浦工業大学デザイン工学科教授 橋田 規子氏

「今年を受賞作品は、人々の暮らしを支える製品で、かつ普段見えないところにあるものが多くあがりました。水中機器用フロートケーブル、後付け逆流対策弁、耐火性ビニル管、収納式シートなど、塩ビのタフさや、多様な素材に成形できることが示されました。他にも海洋ごみ対策のマリンフロートカバー、高齢化社会で活用できそうなリハビリ用品など今後の社会問題に対応した製品がありました。また子供の遊びに関するもので、防水靴や、ブロック、ボッチャなどは、今後の展開が楽しみです。Covid-19 対策品も興味深いものがありました。もう少し完成度を高めていただくことを期待しています。」

日刊工業新聞社論説委員・編集委員 山本 佳世子氏

「今回、気になった動向の一つは、新型コロナウイルス感染症関連の作品が、どの程度であるかでした。結果は、応募全体の3分の1ほどのこと。入賞ではあまり目立たないことが意外な結果でもありました。モノづくりの現場において、新型コロナ対応の

ような強い社会ニーズは一般に、開発後押しの効果があります。ただそれが「売れそうだから」「ブームだから」という気持ちのままでは差別化できませんし、審査員の心にも響きません。流行でなくなっても通用するコンセプトに、作り手の熱い思いを重ねた挑戦を、次回の PVC Award でお待ちしております。」

(一社) 日本住宅リフォーム産業協会 専務理事 押部 隆利氏

「参加商品は硬質・軟質・複合材と多岐に及び PVC の市場の多様性を改めて感じました。今回は特に対コロナの感染防止や環境配慮のアイテムが目立ちました。リフォームでも感染防止や環境配慮は重要項目です。これらの商品がリフォームでも多く採用される事を願っております。」

今回の受賞作品は、屋外の設備工事、健康用具、建材、日用品、遊具など用途が多岐にわたり、「生活を豊かにする PVC 製品」のテーマに相応しい作品が選ばれています。また、防災や環境負荷低減に貢献する作品が多かった点も今回の特徴です。受賞できなかった応募作品も含めて、2022年1月21日(金)から30日(日)までの10日間、GOOD DESIGN Marunouchi (東京都千代田区丸の内 3-4-1 新国際ビル 1F) で展示会を開催しますので、多くの方に PVC 製品の魅力に触れていただきたいと思います。

お問合せ : info@vec.gr.jp (PVC Award 2021 事務局)

PVC Award : [公式サイト](#)

■ 随想

◇ エスワティニ王国旅行記 (4) 道路と自動車

元一般社団法人 日本化学工業協会 若林 康夫

イギリスの植民地だったエスワティニ王国、車は日本と同じ右ハンドル。道路の通行も人は右、車は左。このため、レンタカーを借りても、違和感はなく、日本の感覚のまま走り出すことができます。

高速道路はかなりの区間、日本の道路建設会社が工事を請け負ったため、日本の地方の高速道路を走っているような錯覚にとらわれるほど、センターラインもガードレールも日本と同じです。

高速道路、日本のように一般道と完全に分離されておらず、ドイツのように、道路のある区間は高速道路、それが、街中に入ると一般道に変わります。このため、高速道路区間では制限速度が 120km、街に差し掛かるとどんどん制限速度が落ちていくとともに、道路にわざと突起を作り、速度を落とさないとその突起に乗り上げ、車体にかかなりの衝撃が与えられる設計になっています。

この道路上の突起、ヨーロッパやアメリカでもよく見かけますが、エスワティニ王国はスピードを出す人が多いせいか、一般道でも至る所にこの突起があり、制限速度内であっても突起の手前でブレーキを踏み、徐行しながら超えるので渋滞がなくても、一定速度でのスムーズな走行は望めません。

また、国の財政が非常に逼迫しているので、一般道のメンテナンスがほとんど行われず、そこら中、穴だらけ。

制限速度 120km の高速道路でも、直径 1m、深さ 50cm 程の穴が、普通に開いています。高速道路でもこのような状況ですから、一般道の運転はテレビゲームのように右に左にハンドルを切り、穴を避けながらの運転となります。

運転は人それぞれ。

制限速度 120km の高速道路を、その半分の 60km でのんびり走っている人もいれば、制限速度で走っている私の車の横を、もの凄いスピードで追い抜いていく車もあります。

ほとんどの車両が日本やオーストラリアなど、右ハンドルの国で使用されていた車両の中古品なので、故障も多らしく、道路脇に止め、修理をしている車両を多く見かけます。

コンディションの悪い車両、速度が遅い車両と、早く走りたい車両が混在しているので、これまで大きな事故は見かけませんでした。追突事故の現場はかなり多く見かけました。

どの事故もドスンとぶつかった程度で、何れも物損事故でしたが、高速道路では最低制限速度も設けた方がいいかもしれません。

この高速道路、一般道にそのまま直結しているため、住民の生活道路としても使われています。

このため、高速道路を人は歩く、若者はジョギングをする、道路脇で物を売る、ヤギや羊の放牧をするなど、とても高速道路とは思えません。

ヤギや羊が高速道路を歩いていると、急ブレーキを踏むのも危険なので、頼むからこちらに向かってこないでくれと祈りながらハンドルを切り、ギリギリ、その脇を通り過ぎることになります。



また、牛の放牧場のそばには、きちんと、牛に注意の標識があるので、皆さん、その標識を見ると若干速度を落とします。

ヤギや羊だと、最悪、跳ね飛ばすことが出来ますが、牛だと車の方が大破してしまいますから (^_^)

また、トラックなどが先を走っていると、後続車から見通しが効かないため、路肩に羊やヤギ、牛などが居ると、ハザードランプを点滅させ、後続車両に教えてくれます。

地方の街では無料駐車場も数多くみられ、駐車場に困ることはありません。日本のようにパーキングエリアなどがいないため、長距離を運転する方は街に入るとちょっと車を止め休憩し、再び走り出していきます。

国内の移動は車。

自家用車を持っていない人はバスかタクシーを利用することになります。

今回、レンタカーを借りたので、これらの交通機関は利用していませんが、路線は充実しており、行先も英語 (アルファベット) で表示されているので、外国人が利用する際にも困ることはなさそうです。

長距離バスでは、隣国、南アフリカ共和国やモザンビーク共和国行の国際長距離バスもかなりの本数が運行されているそうです。

南アフリカ共和国とは経済的な関係も強いので、国境に近い町からは、勤務先である南アフリカ共和国まで、通勤されている方も居られます。

陸続きのヨーロッパなどでも居られるのかもしれませんが、毎日、国境を越えて通勤する、日本人ではイメージが出来ませんね。

毎日、パスポートを持っていくのか、出入国審査は行うのか、見てみたい気がします。

(続く)

次回は、(5) 健康 です。

⇒ [バックナンバー](#)

■ 関連リンク

- [メールマガジン登録](#)
- [メールマガジン解除](#)

※本メールマガジン上の文書・画像等の無断使用・転載を禁止します。



■ 東京都中央区新川 1-4-1

■ TEL 03-3297-5601 ■ FAX 03-3297-5783

■ URL <https://www.vec.gr.jp> ■ E-MAIL info@vec.gr.jp